

第2部 G-09b

コミケットスペシャル4 研究報告会資料

コミケの規模拡大とふくらみの発育の相関

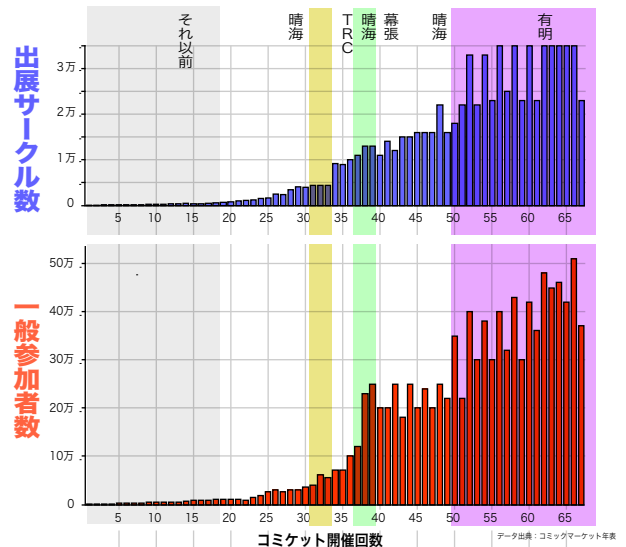
○こーわ WARHEADS, Project-FTMM, Ko-wa's Inn <http://ko-wa.milkcafe.to/>

1 コミケはこうして大きくなった

コミケは年々規模を拡大している。右グラフは、コミケット準備会発表の資料^{※申込書記載の年表}による開催回ごとの出展サークル数と一般参加者数である。

出展サークル数はイベント会場の床面積によって上限がある。その上限によるサークル数の頭打ちは、晴海での開催[40以降]と有明での開催時に顕著である。晴海では一日あたり8000（2日開催で16000）、有明では一日あたり12500（2日開催で23000、3日開催で35000）が上限のようである。もちろん申込サークル数は出展サークル数よりずっと多く、回を追って増加している可能性が高い。談話によると、近年では5万強で安定しているとのことである^{※7/15更新}。申込サークル数に関しては安定期に入った可能性がある。

一般参加者数は会場による制限がかりかりにくいため、一貫した増加がみられる。その増加には特徴があり、幕張での[38]にて参加者数が激増していること、引き続き晴海では小さな増減にとどまること、有明に移ってからは再び増加に転じていることがわかる。

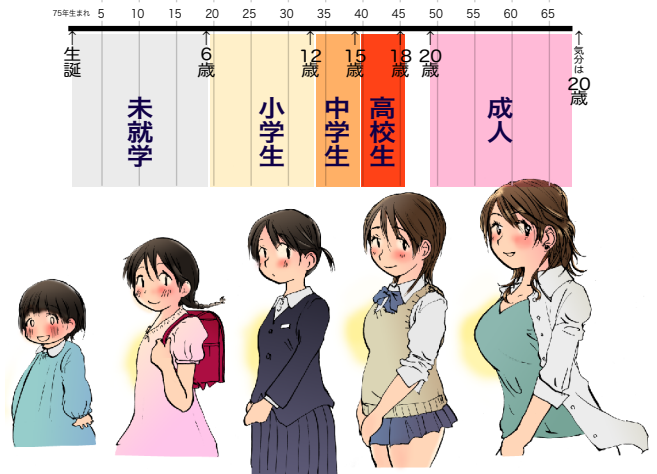


2 コミケの成長を年齢でみると

コミケの規模拡大をコミケの年齢という視点で検証する。現在、年二回の開催が通常のコミケであるが、以前は年に三回開催されたこともあった。そのため、開催回数で並べるだけでは正確な年次情報にならない。そこでコミケの開催年月からコミケの年齢を求めた（右図）。年齢とともに、人生の節目と考えられる就学状況も併記した。

人生の節目とコミケの拡大の歴史には興味深い一致点が見られる。まず、イベント会場の移転との関係である。特に晴海移転には特異性があるようだ。晴海の第一回である[19]は、年齢で見ると小学校に入学する時期に重なる。一度TRCへと会場を移した後に、再び晴海へと戻ってきた[34]は、中学への入学時期に相当する。そして幕張へと会場を移した後、みたび晴海へと戻ることになった[40]は、高校への入学時期と一致するのである。そして晴海会場とお別れとなった[49]の時期、コミケは成人を迎えることになった。

次に、前述した幕張での一般参加者の激増との関係である。その時期は中学生時代に相当し、急激な拡大はまるで中学生の第二次性徴のようである。冬から夏にかけての半年で、これほどまでにふくらむのである。

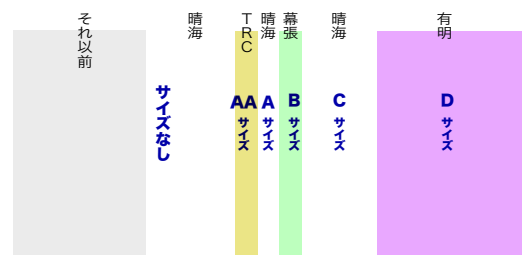


3 会場の規模とは包み込むサイズ

コミケ参加者数の増加は、ヒトの性徴に対応がつきそうである。では会場の移転は何に対応するのであるうか。会場の移転は規模拡大を目的としており、現実問題として入りきらなくなってしまう参加者を取めるために行われる。理解のために、会場のサイズに応じた合理的な分類・呼称を行おう（右図）。

初期のコミケでは、サークル申込数はさほど大きな問題ではなかったはずである。したがってこの時期の会場は総称して「サイズ規定なし」とする。その後二度にわたって登場する晴海はそれぞれ一日体制、二日体制、全館使用二日体制と規模が異なるため、別分類をする。TRCから順にAAサイズ、Aサイズ、Bサイズ、Cサイズ、Dサイズと名付ける。

作為的な名称分類の結果、会場の移転は、成長に伴うふくらみを包み込むもの案を案させる。包み込むサイズは、大きすぎても小さすぎても良くない。AからBサイズへと交換した時期は、急激な規模の変化を経験した時期でもあった。Cサイズを用いていた時期は規模が安定していたが、成人後（有明）のDサイズ交換後は規模が拡大し続けているのが不安要素である。これ以上のサイズは日本になく、米国フロリダの会場（Fサイズ）やドイツ、ハンノーバーの会場（Hサイズ）などの特大サイズが候補として挙げられる。



コラム：どの規模のイベントを好みますか？

おそらく大きければ大きいほどうれしい！というものから、ほどほどサイズが本を見つけやすく良い、やっぱり小さい方がまったりできてツウ好みだよと、それぞれ分かれるであろう。参加者各自の価値観はさまざまである。好みのサイズ名称と比較すれば、それがいかに個人的な嗜好であるか明らかである。女性に比べ、男性諸兄に評価されているイベントに大規模なものが多いのは、なにかしら共通の評価基準で判断してしまっているからかもしれない。ここ、縦読みしてね。